

ヤスクニ・レポ 270 安倍元首相国葬には反対する 月村 順一(JBBF 船橋聖書バプテスト教会 教会役員)

現在、安倍元首相の「国葬」が準備されている。戦前には「国葬令」があり、伊藤博文や山県有朋ら首相経験者のほか、日露戦争で連合艦隊司令長官を務めた東郷平八郎や、太平洋戦争で戦死した連合艦隊司令長官・山本五十六の葬儀も国葬で執り行われた。だが「国葬令」は1947年に失効した。以後は1967年の吉田茂の国葬のみである。以降、内閣総理大臣経験者をはじめとした有力政治家の葬儀は、内閣、所属政党、所属議院、遺族のいずれかの組み合わせによる合同葬として行うことが多かった。1975年に死去した佐藤栄作は、その葬儀は「自民党、国民有志による国民葬」として行われた。経費の一部を国庫から支出する旨が行われ、国庫負担額は2004万円で「国民葬」の名で呼ばれた。1980年(昭和55年)に現職首相のまま急死した大平正芳は「内閣・自由民主党合同葬」で行われた。国庫負担額は3643万円。1980年の大平以降は、首相経験者の葬儀が行われる際に内閣と自民党合同葬とする葬儀が多かった。

岸田内閣は7月22日、銃撃されて7月8日に亡くなった安倍晋三元首相の「国葬」を9月27日に日本武道館(東京都千代田区)で行うことを閣議決定した。「国葬」を行う法的根拠として、内閣府の所掌事務について定めている「内閣府設置法」第4条第3項第33号、「国の儀式並びに内閣の行う儀式及び行事に関する事務に関すること」の規定に基づいて、閣議決定を行えば「国葬」を国の儀式として実施することができる」と説明している。

葬儀委員長は岸田文雄首相が務め、費用は政府が全額負担する。8月31日の記者会見で、

- ① 憲政史上最長の8年8カ月にわたって首相を務めた。
- ② 東日本大震災からの復興や経済再生、日米関係

を基軸とした戦略的な外交を主導するなどの業績を残した。

- ③ 各国で様々な形で敬意と弔意が示されている。
 - ④ 選挙活動中の死であり、暴力には屈しないという国としての毅然(きぜん)たる姿勢を示す。
- の4点を理由に挙げた。しかし
- ① 長いというが中途放棄した。
 - ② 経済再生はしていない、アベノミクスによる富裕層への優遇、日銀0金利政策での円安、物価高進行。
 - ③ 国内世論の反対を知り外国首脳クラスの欠席。
 - ④ 殺害は誰も認められないが背後旧統一協会の影響を見ると到底賛同できない。
- の4点を指摘できる。

小林節慶応大学現法学名誉教授によれば、憲法上、国の最高機関は国会である。内閣は国会が制定した法律と予算を執行する機関である。内閣府設置法4条は、憲法7条と皇室典範25条に規定されている大喪(天皇の国葬)などを執行するいわば手続き法、「元首相」の国葬を根拠づける法律は存在しない。日本国憲法の下における国葬を執り行いたいなら、まず一般法として国葬の条件を定めた「国葬法」または特別法としての「元首相国葬法」を制定する必要がある。それを省略して閣議決定だけで安部国葬を執行するなら、それは「法律に基づいた権力行使」(法治主義)と財政民主主義に違反する。さらにそういう仕組みを定めた「憲法の優位性」を無視するものである。まるで、憲法尊重義務を負った内閣(99条)が最高法規である憲法(99条)の上にあるようで、背理である。と指摘する。

このよう安倍国葬は認められない。また、国民の思想の自由、キリスト者個々の信教の自由をも犯すものであることを言っておきたい。

2022年8月19日例会奨励
「千六百スタディオンに」ヨハネの黙示録14章20節
星出 卓也（日本長老教会西武柳沢キリスト教会牧師）

最後の審判における、滅びの子どもたちの裁きの描写が続きますが、最後の20節は、滅びの子らへの裁きの刈り取りの業が、とてつもない壮大なスケールで行われることが記されています。その光景は見る者を震え上がらせ、嘔然とさせるものです。

まずは全世界からことごとく集められたぶどうが踏まれて行く踏み台のある場所について「**都の外にあるその踏み場でぶどうが踏まれた。**」とあります。この都は聖なる都エルサレムを指していながら、それは地上の都のエルサレムのことではありません。ヨハネが黙示録を書いた時代には、エルサレムは既に崩壊されて、なくなっています。この都とは、最後の審判の唯一の逃れの間です。神の贖いがある場所、神とその民が共にいる場所のことです。「場所」と言っても、厳密には地上のある場所のことを言っているではありません。主に贖われた民がすべて与えられているキリストの贖い。そこにある主との永遠の交わりのことを表し、主の民の救いが完成すること、神と共にこの民が永遠に住まうことを語っています。この場所から、踏み台に踏まれる滅びの民は、悉く除かれるのです。「**都の外にある踏み台**」とは、この神の審判の場所に、もはやどのような救いもない、贖いもない、罪の赦しも、きよめもない、ということを示しています。キリストが都の外のカルバリの丘で十字架に付けられたのは、神の燃える怒りがキリストの上に完全に注がれ、御子が神に呪われた者となり、永遠の滅びを受けたことを良く表していることです。この審判の日に、神の憤りの踏み台に踏まれる場所には、もはや、そこに救いはない。キリストがその罪を身代わりに背負うこともない。そのような場所なのです。

さらに、その踏み台でぶどうが踏まれるのは、世界中からことごとく滅びの子らがかき集められた、壮大な世界規模の踏み台で、「**すると、血がその踏み台から流れ出て、馬のくつわの高さに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった。**」とあります。神の裁きの踏み台から流れ出る血は、海を覆う巨大な太平洋の様、広大な大河のようにあふれ流れ、そのスケールはとてつもない規模なのです。

「**馬のくつわ**」とはどれほどの高さでしょうか。馬の口に付けられたくつわは、地上から見上げれば、私たちの背よりもはるかに高く見上げる場所にあります。しかも流れ出る血が、海のように地上を覆い、その血が溢れる高さが「**馬のくつわ**」の高さですので、その量はとんでもない量となります。しかもその広がり「**千六百スタディオンに広がった。**」とあります。1スタディオンとは約185メー

トル。しかも1600スタディオンとありますから、単純計算しますと約296キロメートルとなります。ただこれは単純計算して296キロメートルだというような話ではありません。ヨハネの黙示録は数字に、ある象徴的な意味を込めています。1600スタディオンという数字そのものにメッセージがあるのです。単純に4×4で16。これに全部を合す10にさらに全体を表す10をかけて1600。色々なことを言う人がいながらも、これが最もシンプルな説明です。ヨハネの黙示録には「四つの生き物」など4と言う数が出て来ます。この四は世界のあらゆる場所を表します。東西南北の四つの方向、四方を表して、全世界を表す。これが4という数字の意味です。「**選びの民を四方から集めます**」の「**四方**」とは全世界という意味です。その4に更に4をかけて、この世界全部、津々浦々ということ。更に全部を意味する10に更に10をかけて、この世界全部の意味に、ダメ押しを入れて、更にその上にダメ押しを入れる。それが1600という数です。つまり滅びの子どもたちが世界のあらゆる隅々から集められ、そこに神の怒りが徹底して注がれる様を、1600スタディオンにあふれる踏み台から溢れ出る血の海と表現しているのです。それがどれほどの巨大な規模であるかは、想像しえない、測りえない。神の御怒りの裁きが滅びの子たちに注がれ、その踏み台から流れ出る血の海は広大な太平洋のように地を覆い尽くす、そのような様を「**血がその踏み台から流れ出て、馬のくつわの高さに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった。**」という言葉で表現をしているのです。それは「計り知れない巨大で広大な地の海」という抽象的な表現にも勝って、よりその神の裁きのすさまじい様、計り知れないさまを、「計り知れない」という言葉に優って表現しています。

「**千六百スタディオンに広がった**」とあるこの計り知れない血の海を想像して、神の裁きの恐ろしさに正しく震えおののく者は幸いなのです。ノアの洪水の裁きは、見たものでしかわからない恐ろしさであるでしょう。それはどのような文学的表現でも表現し尽せない恐ろしさでしょう。この都の外で行われる恐ろしい光景を私たちも想像力の限界がありながらも、少しながらも想像して、主イエスが都の外でこの恐ろしい裁きを十字架の上で代わりに担われた、そのまことの逃れの間で逃れる者となり、主の御心を行う忍耐と労苦の道を、主と共に歩む幸いな者とさせられたいと思います。